

高齢者の製品事故事例と対策

●製品事故事例

事例 1

介護ベッドでの挟まり事故

サイドレールの隙間に首が挟まり、窒息状態となり死亡した事例や、手足がサイドレールの隙間に挟まったまま体を動かしたり、**ベッド操作**を行ったことにより骨折等の重傷を負った事例がある。



事故を防ぐためには？



注意

- サイドレールやベッド用グリップの間に手足などが入りそうな隙間がある場合は、メーカー推奨の**スペーサ**を利用するなど隙間をふさぐ。
- 介護を行う人は、ベッドの背を上げるなど動かす際、介護を受ける方の手足がすき間に挟まれないよう、**手足の位置を確認**する。



事例 2

電動車イスでの転落・転倒事故

アクセルレバーなどの「**操作ミス**」や下り坂でクラッチレバーを解除するなどの「**誤使用**」、傾いた路肩に侵入するなどの「**悪路走行**」による事故が発生している。



事故を防ぐためには？



注意

- 初めて運転するときは、操作や速度に慣れるため、販売店やレンタル事業者の担当者から正しい**使用方法の講習**を受ける。
- 乗車前には必ず、取扱説明書に従って、**日常点検**を行い、走行前には**バッテリーの残量**を確認する。
- 砂利道やあぜ道などの舗装されていない道路や踏切は避け、夜間の運転や**悪天候**（雨、雪、風、霧など）のときの運転は控える。



家族や周囲の皆様の見守りも大切です

高齢になると目が見えにくくなったり、耳が聞こえにくくなったりと五感の機能が低下します。高齢者の製品事故を防ぐためには、こうした高齢者の身体機能の変化や生活スタイルを、家族や周囲の皆さんもよく理解して、日頃から高齢者を注意して見守ることが重要です。

